

自慢の逸品「多賀にんじん」の
魅力を広げたい！

令和2年2月に法人を設立し、
これからも成長を続けていける農業に取り組んでいます。



安全でおいしいものを食べてほしいという思いを
一番に、JGAPの認証取得や加工品も視野に
入れて、これから栽培面積を拡大していきたいと考
えています。

※JGAP（ジギャップ）：食品安全・労働安全・環境保全・人
権福祉など持続可能な農場経営への取り組みに関し、日本
の標準的な農場にとって必要十分な内容を網羅した基準

たがちょうつちだ
多賀町土田
（株）G-FARM
代表取締役
よこもりもとかず
横森 元一さん(38)



主な生産作物

作物名	作付面積
水稲	2ha
麦	2ha
多賀にんじん	80a
ブロッコリー	30a

(令和2年度)

多賀町で法人を設立

令和2年2月に（株）G-FARMを設立しました。Gには「グロース・ゲッティング・グレート」などの意味を含め、私が代表取締役を務める代以降も成長を続けていけるよう名付けました。
私自身はもともと東京で会社員をしていましたが、多賀町で農業を営む義父を継ぐため、平成25年に引越してきました。これまで失敗することも多くありましたが、地域の皆さんに支えてもらい、JAや行政のバックアップに助けられ、今の私があると思っています。これからも地域に根ざした農家として、農業に真摯に向き合っていきます。皆さんよろしくお願ひします。

自慢の逸品「多賀にんじん」

農業経営をしていく中で、やはり地域の特産品「多賀にんじん」の栽培が大きなウエイトを占めます。ニンジン特有の臭みがなく甘味が強いので、ニンジン嫌いな子どもでも喜んで食べてもらえる自慢の逸品です。多くの人に食べてもらいたいからこそ、栽培には気を付けています。私にも3人息子がいるので、安全・安心というこだわりは絶対に欠かすことができません！それを大前提として、更なる品質の向上や生産規模の拡大、6次産業化も視野に入れて取り組みを進めています。11月から3月上旬にかけてJA東びわこの直売所や地元スーパーに並びますので、ぜひ手に取ってみてください。

地域一体でより良い農業を

農業の現場では全国的に高齢化が進み、歯止めがきかないのが現状です。そのため、若者が農業をできる環境を今後さらに整えていくべきだと考えています。
農業に携わる人が増えてほしいという思いで一農家として新規就農検討者のツアー受け入れなどを積極的に行っていますが、大事なのはやはり地域と協力して取り組むことだと思っています。地域の皆が協力して農地を守り、より良い農業を実践していくことで、農業に興味を持ってもらえる人が増えたら嬉しいですね。さしあたっては「多賀にんじん」をはじめ野菜の作り手が増えてくれたら、この地域がもっと盛り上がるのではないかと思います。



安全にこだわって栽培する「多賀にんじん」

Search!
今月の表紙

5月号の表紙は、JA東びわこの食農教育活動「ちゃぐりんキッズクラブ」で令和元年5月に行った田植えです。参加者の皆さんと当JAの新入職員が協力し、豊郷町の田んぼで田植えを体験しました。
写真は、一列に整列して「これから植えるぞ!」という場面です。裸足で田んぼに入る初めての体験に、緊張と不安が入り混じった表情が水面に映っています。田んぼから少し離れた場所では、カメラを片手に保護者さんによる応援にも熱が入っていました。活動を通じて「食」と「農」について学び、これからも健やかに成長されますように。



Contents

- 4 特集
おいしく安全な野菜づくりを目指して
農業に頼らない家庭菜園
- 6 今日からはじめる 家庭菜園
- 8 ピックアップ! 地域のEすとニュース
- 10 あつまれ 地域のEひと
- 12 スタッフルーム
- 14 おいしくうれしく 魔法のレシピ